

2019年度 認定NPO法人 やまぼうし 事業計画



やまぼうしは、2017年度定期総会で「全事業所と会員の智慧とパワーを発揮して、やまぼうしの経営改善3か年計画を着実に具体化し、やまぼうしの花を咲かせましょう」とする方針を決定しました。本年は、この間の経営改善の3か年のロードマップを継承・発展させ、新たな経営改善計画の策定・実践に取り組みます。

1、新たに設定した「やまぼうしの組織理念」を会員全体で共有しましょう！

「障害者と共に生き、働く 共生社会の実現」と

「地域社会の課題解決を目指した社会的企業の創造」

2、組織理念の実現に向けての事業目標の3つの柱を具体化させましょう！

1) 新たな組織設計による事業経営

①法人内事業連携を促進する「事業所のブロック化」と「課題別プロジェクト」の推進

「やまぼうしホーム事業部」は、男女ユニット全体のユニット責任者会議の定例開催、「スロワーワールド事業部」は各多機能型事業所 毎に、「やまぼうしサポートセンター」は、ホームヘルプ・ガイドヘルパーの確保・育成を軸に各事業部と連携してきています。「課題別プロジェクト」は未着手で、それぞれの部門で抱えている援助困難ケース対応への連携が求められています。

② 関連法人や企業とのコラボレーションの拡充（地域の資源を生かした仕事おこし）

市民協働団体「めざしの会」の立ち上げに参画し、日野市商工会の「空き店舗活用事業」や、明星大学等との連携による演劇会の上演、新たな「発達障害者の就労支援事業の創設」の検討、協同組合（生活クラブ・ワーカーズコープ）との仕事おこしの協議・連携作業を重ねてきています。

2) 市民のライフ&ワークと生物多様性を大切にすまちづくり

①重度障害者も含むディーセントワーク（働き甲斐のある人間らしい仕事づくり）

就労継続A型「ディーセントワーク平山台」の経営改善に取り組むとともに、生活介護事業所でも多様な仕事づくりに取り組んでいます。

②高齢期を迎えても安心して暮らせる「共生型事業拠点とまちづくり」

「多摩平地区」「平山台地区」「高幡台地区」を重点地区として、日野市の地域福祉計画・障害者計画と連携して「共生型事業拠点」の構築に向けた取り組みについての提言や協議を行ってきました。今期新たな関連施策がそれぞれの地区で展開される予定です。

③関東自給圏ネットワーク（「FEC」・・・フード・エネルギー・ケア）の結成に参加し、生物多様性を大切にする交流促進事業を開始しています。山梨・三多摩地区を中心に取り組みます。

3) 福祉と経営の2つの専門性を身につけた人材の育成

①「当事者主体のケアマネジメント」と「事業経営の計数管理」の徹底

- ・ 援助困難事例に対して、随時事業所をまたがった支援の連携を図ってきました。
 - ・ 事業計画で年間・月間の経営改善目標の数値を設定し、経営診断を行っています。
- ②情報の共有化と発信力の強化 広報誌（やまぼうし通信）の刷新と会員の法人経営参加の推進
やまぼうし通信は、昨年は1・3・7・10月、今年は1・5月発行し、法人事業への会員の理解と会費・資金カンパの協力をいただいています。（会費納入者約200人）
- ③ ホームページのリニューアルと積極活用を随時行っています。

3、組織理念と事業目標実現のために今期取り組む課題

近年、「やまぼうしの事業の福祉施設化」が強まってきていることに留意しなければなりません。障害当事者と支援者の関係が、施設での「指導する、される関係」ではなく、「障害を持つ人も持たない人も、地域の高齢者や子どもたち・市民とも、生き生きと自分らしい暮らしを共に創り上げていく」関係性を大切にしていってまいりました。

これまで、「やまぼうし経営改善計画」は、単なる収支改善計画ではなく、やまぼうしが、今後「どのような事業分野」で、「どのような事業課題を設定」し、「どのように事業を推進」していくのかの具体的方策を明示するものとしてまいりました。今期は、このことを具現化することに全力投球する年とします。

そのために今期は、そうした事業構想を実現できる「マネージメント力」と「ガバメント力」を法人全体として獲得していくための道筋＝「プロセスの提示」を次の3つの視点から具体化していきます。

合言葉 “やまぼうしのピンチをチャンスにする年に”

1)法人経営を巡る外部環境の激しい変化に適切に対応していくために、やまぼうしの小規模・分散型の事業体制のデメリットを克服し、事業所間の連携強化を図る。

- ① 法人事業全体での単年度収支の赤字の解消を最優先とし、黒字化に向けた収支改善の目標値を当初予算で計上する。
- ② そのために、各事業ブロック単位での福祉収支の黒字化にむけ、利用者定員と現員の乖離を解消する受け入れ増の目標値を事業計画で計上する。
- ③ 利用者増の不足をカバーするために、通所率の向上を重点課題とし、土日・祝日の営業日の設定とそれに伴う新たな支援プログラムの開発等の具体策を事業計画で明示する。

2)やまぼうしが永年にわたって追及してきた「障害別・程度別に分断されない多様な働き方と暮らし方」や「市民協働の推進」の実践を法人の「強み」として最大限活かしていく支援プログラムの開発に取り組む。

- ① 「多機能型事業所くらさわ」の土曜日プログラムへの参加を他事業所や会員・市民に呼びかけていく。
 - ア、ガムランの活動への他事業所からの参加希望者の受け入れ
 - イ、くらさわの週末の農園芸活動へのガイヘルやサポーターとの参加促進
- ② 「多機能型事業所れんげ」の土日・祝日プログラムへの参加促進
 - ア、平山台カフェでの「カラオケとカーリングの日」の定例開催
 - イ、三河屋さんの「おから」を活用して「乾燥おから」の製造・包装作業を土曜日の「協働作業日」とし、

「おから料理の試食会」を開催していく。

ウ、好評だった「やまぼうし祭」を定期的に開催する。各事業ブロック毎の持ち回り開催も検討していく。

これらイベント参加を各事業所の事業計画に明記していく。

③ 多機能型事業所「おちかわ屋」の土日・連休プログラムの拡充

ア、鈴木牧場の一角で予定している「紙漉き工房」の開設と和紙工芸活動を「平山台」と「おちかわ屋」のアート活動として共有していくこととし、市民参加をよびかける。その成果物を「クプリ」で販売するとともに、おちかわ屋やふれあいの森でギャラリー展示・即売する。

イ、土日・祝日営業している「ふれあいの森カフェ」を有効活用し、おちかわ屋が取り組んでいる「用水守活動」（用水清掃）への他事業所からの参加や障害者スポーツイベントへの参加と「やまぼうし会食会・交流会」を定期開催していくことも検討していきます。（おちかわ屋は、日野市の文化スポーツ課の要請に応じて 文化スポーツ市民活動連絡会と日野市日野市市民団体連絡協議会に加盟しています。

ウ、おちかわ屋の二階の空き店舗を活用して、活動開始を予定している市民団体の地域活性化事業と連携して、各種イベントや協働事業に参画していきます。

④ 好評だった「やまぼうし祭」を定期的に開催する。各事業ブロック毎の持ち回り開催も検討していく。

3)事業構想の具体化と推進のために、法人に「事業推進調整会議」を設置し定例開催する。

①法人の組織・経営体制の見直しに取り組む。

「経営と福祉の2つの専門性を身につけた人材の確保」の壁を打開するために、「2つの専門性を融合した事業経営体制」への転換を図る。具体的に、経営の専門（本部スタッフ）と支援の専門（サービス管理者）が、各事業所単位ではなく、事業部門単位で 経営責任者と支援責任者を選定し、「事業推進調整会議」を4半期毎に開催する。

事業推進調整会議の構成メンバー（案）

ア、常務理事会メンバー（理事長・副理事長・専務理事）

イ、本部事務局 連絡調整担当者

ウ、やまぼうしの事業部の各事業所責任者とサービス管理担当者

②法人事業改革の課題

ア、福祉会計収支の「人件費比率」の改善、赤字幅の縮小に向けた取り組みの具体的検証

イ、就労会計収支での「原価率」等の改善に向けた「計数管理力の向上」

ウ、利用者ケアマネジメントの調整 新規利用者の獲得、就労者支援の強化

エ、6次産業化を推進する法人の生産・加工・販売広報・宣伝ツールの開発と活用

オ、法人事業全体での単年度収支の黒字化

カ、共生型事業拠点の整備等の事業企画の検討

キ、土日・祝日プログラムの企画・実施

③理事会・監事体制の強化

理事会の年間開催日程の事前確定。

以上。